



第3回 東北大学グローバルCOE 若手フォーラム

パーキンソン病とドパミン神経伝達異常 – 脳機能イメージングによる検討

Parkinson's disease and impaired dopaminergic transmission –functional neuroimaging approach

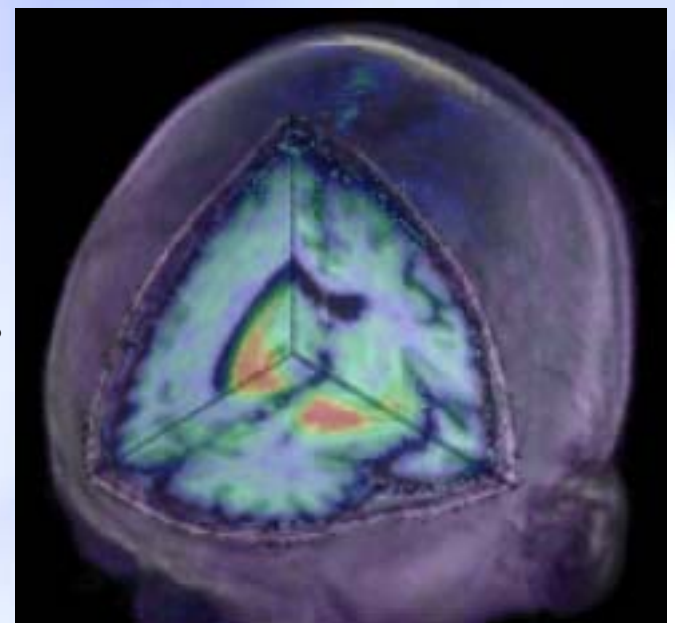
澤本伸克先生

京都大学医学研究科附属高次脳機能総合研究センター

京都大学ナノメディシン融合教育ユニット

代表的な脳神経疾患の一つであるパーキンソン病(PD)は、運動障害をはじめとして多様な臨床徴候を示す。この疾患では、黒質から線条体へ投射するドパミン神経の変性が特徴的な病理所見である。したがって、PDの臨床徴候は、線条体のドパミン欠乏による基底核の機能異常によって説明されてきた。一方、臨床徴候が、線条体のドパミン欠乏だけでなく、多系統の神経伝達物質の欠乏を反映している可能性も指摘されている。患者脳内では線条体のドパミンだけでなく、ノルアドレナリンやアセチルコリンなども低下していることが示唆されているからである。

本フォーラムでは、ヒトを対象とした機能画像法の研究結果から、PDの臨床徴候と神経伝達異常との関連を議論する。特に、線条体及び前頭葉のドパミン神経伝達に注目して、正常機能も含めて議論したい。



「こころをみる」ことに関する脳機能画像研究

Theory of mind in health and disease –functional neuroimaging approach

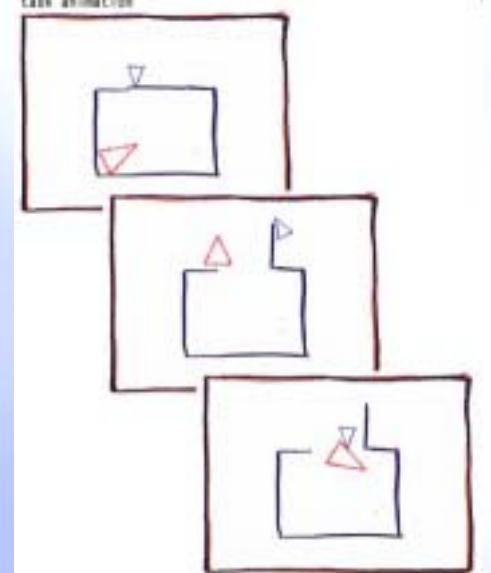
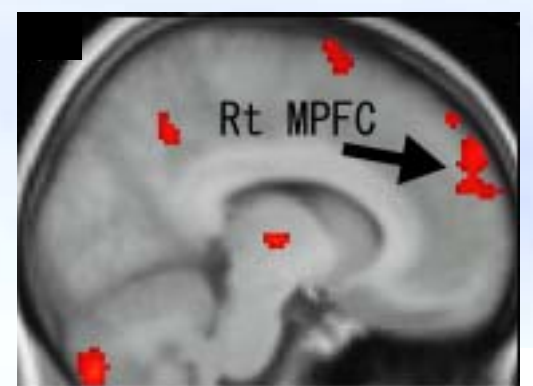
守口善也先生

国立精神・神経センター精神保健研究所

心身医学研究部

自己・他者の心を理解することは、臨床的にも非常に重要なことであるが、この自己と他者の表象が共通項を持つことが最近知られはじめるようになった。そこで考えられる仮説は「自分の事がわからないひとは、他人の事もわからないのではないか?」というものである。そこで、脳機能画像を用いて、自己の情動の同定・表象困難である「アレキシサイミア(失感情症)」の人々における脳活動の変化を、様々な他者理解のコンテキスト(e.g., 心の理論における内側前頭前野、共感におけるpain matrix、ミラーニューロン関連領域としての前運動野・頭頂葉など)で検証した。それにより、アレキシサイミアではこうした他者理解の様々な側面での脳機能に差異があることが示された。

このことを通じて、自他の認識の共通の神経基盤がどのような要素によって成り立っているのか、さらに、アレキシサイミアと相同性が指摘されている自閉症スペクトラムに関して若干言及したい。



若手フォーラムは異なる分野の脳科学研究を知って頂くことを目的としております。演者の方々にはイントロを分かり易く話して頂きますので、これらの分野に明るくない方も奮って御参加ください。

日時：12月21日(金)

15:00 ~ 19:00

場所：医学部5号館2F

201号室

講演後、忘年会を催します!!

